

将軍山会報

発行者
 ☎567 茨木市西安威2-1-15
 追手門学院大学校友会
 会長 関 謙 二
 ☎ 0726-43-5421 内線451
 編集者
 佐 藤 新 二
 © 1987

大学創立二十年を終え 学院百周年を迎えて思うこと

会長 関 謙 二

追手門学院大学を創立した私達は昨年の秋、母校創立二十周年を祝い、大学当局と協議し、在学生と協働して、校友会としての記念事業をすすめてきました。

先ずシンボルマークを決め、次に初代学長・天野利武先生の顕彰と、青春を過ごした私達の想いをこめた記念碑を建立、記念式典後の祝賀パーティーを主催し、会員名簿を発行しました。

こうした一連の事業を推進することができたのは、一つに本会会員の諸兄弟の母校愛とご協力の賜物と感謝せずにはおられません。が今一つは、本会が独立を決議し宣言して、歩みはじめたことにも要因があらうかと考えています。

本会独立への経緯については、既に本会会報第28号で詳細に説明しております(もし、ご入用の方は、本会事務局までハガキでご請求下さい)

い)。ここで再び書きたくはないのですが、山校会の会運営に対する不満を第一に挙げるができます。

第二に、本会会員総数が山校会の主流である小学校・中・高等学校の卒業生総数より多くなったためであります。このことから、必然的に、本会が本会会員に果す事柄も多くなり、本会発展のためには独立して活動する方がより良いと考えたからです。

第三に、独自運営しなければと決意した頃の、山校会の動きと本会への仕打ちの数々でありました。

本会は、今日まで、追手門学院の誇りと名誉を傷つけないようにと考え、耐えてまいりましたが、結果は良くなかったように思います。

本会運営に対する干渉や、会報発送への妨害、本会会員への個人的な誹謗中傷や流言に、本会が耐えてきた事によって、逆に、誤解された点

もあるように思われます。

今後は、本会と本会会員の名誉と将来のために、敢て沈黙を破り、会員諸兄弟に事実と真実をお知らせして行く所存でございます。

幸いにも、母校創立二十周年記念式典後は、奥田順一学長をはじめとし、学校法人追手門学院の中核におられる方々、私達の本意を知っておられる山校会の先輩の方々も、本会が独立し運営せざるを得ない状況にご理解を賜わり、追手門学院の小・中・高校の卒業生の団体としては山校会、大学卒業生の校友会としての本会を認めて下さっています。

その一つとして、学校法人評議員選出では、今年初めて、直接本会に推薦を依頼され、本会より三名が選出されました。

また、追手門学院の前身である、大阪借行社附属小学校創設より百年を迎えるようになって百周年の記念事業後援会にも、大学校友会としては本会が、小・中・高校の校友会として山校会が出席しました。

こうした環境の中で、追手門学院百周年に向けて、山校会との協調を説く方もおられ、本会としても相争

うよりは協調を今まで耐えてきたこともあり、これだけは受け入れてもらいたい、機会を捉えて山校会に申入れてきました。

しかしながら、山校会は、周辺の状況への判断や認識・自覚が不十分で、本会の申入れに対する反応も鈍く、時には無視し、また本会に対しては批判的であり、その行動も疑心を抱かせるようなものばかりであります。時には、本当に百周年を考えているのかなと思うくらいです。

例えば、大学卒業の本会会員への山校会報発送は止めてもらいたい、との本会よりの申出に、一度は了解されていながら、実際は、最新号を送付しています。

その中に、本会に触れた記事がいくつも見られます。大義名分を振りかざし、自覚しているようでも、実は矛盾を露呈しています。こうした相変らぬ姿勢と態度を示される限り、本会は考えを新たにしてお応いしなければならぬと思えばかりであります。

母校創設の母体としての追手門学院の百周年を祝い、それに寄与することは、母校の発展に寄与することと同義であると考え、山校会との協調も過去のわだかまりを捨てて進める方がいっと、常に考えて、山校会の姿勢をじっと待ちつづけておりますが、今のところ、その兆候を感じ

るまでには到っておりません。しかし、時は、待つてはくれませんが、前述のとおり、百周年を祝い、

それに寄与することは、母校の発展に寄与することと同義であると考え、現状の中では、本会および私達に、より身近な母体大学の発展への寄与に、本会の活動を限定せざるを得なくなります。

大学の発展が、追手門学院の発展と同義と、もし多くの方(山校会の方々も含めて)が思って下さるのなら、誠に嬉しいことなのですが……さて、本会では、山校会との関係正常化に向けて、既に、打開案を提示しています。それは、必要に応じて、連絡協議会を開くことでもあります。もちろん、それ以前に、両者の立場を明確にしなければなりません。その辺りがはつきりしない限りこの問題解決への目途は立たないと思っております。

いづれにせよ、早くすっきりさせて、大学の母体である追手門学院の百周年を迎えたいと思っております。最後になりましたが、本会の今年度の事業の一つとして、地域支部の設置を具体化したいと考えております。

一つは、東京を中心とした支部であと一つは、金沢を中心とした北陸地域の支部です。このことに関連した記事を、本紙に掲載していますので、どうかその地域の会員は、積極的にご協力下さるよう、お願いいたします。

また、他の地域への支部設置について、ご希望や質問があれば、遠慮なくご連絡下さい。

役員を補充、体制強化 評議員五氏が運営に新参加

校友会では二十周年記念事業の成功を機に、会勢拡充の一環としてみなさんに評議員の補充推薦をお願いしました(将軍山会報第三十三号で公示)。さきごろ、推薦候補者が締め切られ、五名の評議員が新しく運営に加わりました。続く評議員会、理事会で役員の変更を審議の結果、次の新体制が確立しましたのでご報告致します。

- △会長▽ 関 謙二 (45 済)
- △副会長▽ 平野 昌雄 (常任理事会議長・45 済)
- 大橋 陽一 (46 済)
- 鶴 毅 (20周年記念事業実行委員長・45 済)
- △常任理事▽ 蟻柴 潤一 (会計担当・49 社)
- 口村 一郎 (東京支部設立準備委員長・51 心)
- 佐藤 新一 (会報担当・58 東)
- 小坂井俊天 (46 済)
- △栄誉理事▽ 宮本 正仁 (作家 宮本輝・45 英)
- △理事▽ 上田 武司 (46 英)
- 岡田 能敬 (46 済)
- 岡田 淳 (45 済)
- 川中 士郎 (49 宮)
- 岡本 昭子 (56 英)
- 岡高田 庸子 (53 心)
- 朝野 浩行 (62 宮)
- △評議員▽ 阿部 雅行 (46 済)
- 藤井 義弘 (45 済)
- 中島 健次 (47 済)
- 藤井 基義 (49 英)
- 星本 澄男 (46 済)
- 中野 俊幸 (47 心)
- 吉川 哲夫 (50 宮)
- △会計監事▽ 森 嘉一 (51 済)
- 宮本 幸治 (51 英)
- △顧問▽ 佐藤 良和 (51 院心)

記念碑募金のご協力を

二十周年記念事業はみなさんの多大なるご協力によって、無事終了致しましたが、学内に建立しました「初代学長・天野利武先生の記念碑」について、建立基金の応募をいま暫く、継続して行いたいと思えます。先般来、記念碑の基金募集を行っていましたが、金銭的なご無理をかけるため、協力してやろうという方が少なく、せっかく出来上がった立派な碑を多数の会員の方々が確認していただいているにもかかわらず、募金に協力してくれないのが現状です。是非、ご協力の程をお願い致します。

この碑には、校友会の物故会員のご氏名と没年月日を記載していくことにしています。

また、宮本輝氏が碑文に「ともに同じ青春の丘に駆けし者また再びこの丘に帰りて 集い合いぬ われら再び生を受け 気品ある同志秘めて 駆けゆかん」と記して下さったことを受け、訓導して下さった諸先生、職員の方々、特別会員諸氏についても、ご遺族から希望があれば記載させていただくことにしています。

みなさんも一度記念碑を見に母校に帰られてはどうですか。また、毎

この会報にも前号と同様に同封して、振込用紙をお送りしています。なお、既にご寄附下さいました各位に、再び振込用紙をお送りしないようにいたすのですが、一万三千余通の中から、ご寄附下さった方の封筒を抜きとり、振込用紙を入れないように作業をすることは、大変です。その作業をしていますが、重ねてお送りしていますが、このことについては、ご勘弁下さい。

ご寄附下さった方々のご芳名と口数については、前号編集の際に漏れた方のみ今回の会報に掲載させていただきます。続けて、次号の会報にも掲載させていただきますので、ご了解下さい。

寄附者芳名(敬称略)
二万五千元(五口)
蟻柴 潤一(本会常任理事・49 社)

二十周年記念事業実行委員長
鶴 毅

学校法人の運営に参画 大学卒業生の声を活動に

このほど、学校法人追手門学院の理事、監事、評議員の改選が行われ、理事長に磯田一郎氏を新任したのをはじめ、校友会からは評議員に関謙二会長、平野昌雄、大橋陽一両副会長が選任されました。七月十八日、本会理事会(於「ホテル阪神」会議室)の席上、選出に関する経緯が説明され、学院運営に参画。また、山校友会との協定問題についても協議、追手門学院百周年記念事業に向けて、かねての預り金処理を明確に調整していく方針を確認しました。

今期は、関会長、平野、大橋両副会長が評議員として、学院運営に当たります。しかし、学院卒業生に割り当てられている十二名の枠の選出内容について、山校友会との間で、調整に時間がかかったのは事実です。本会では、卒業生数を背景に、「いかに多くの卒業生の声を、学院運営の場に届かせるか」との見地から、当初は小・中・高校卒業生で六名、大学卒業生で六名の評議員比率を主張していました。山校友会では、小学校、中学校、高等学校、大学の四分類から、三名ずつの選出を求め、少ない卒業生の中から、初等、中等教育部分(山校友会会員)で九名の評議員数確保の声を上げていたのです。

由美ちゃんはアメリカに住む二十歳の女の子。コロラド大学で経営学を勉強しています。彼女は、お父様を日本人、お母様をアメリカ人とで生活していました。

由美ちゃんは、お父様のお仕事の関係で日本に居る時、明德塾で過ごしていたことがあったそうです。ことしの六月、その由美ちゃんは三年振り日本へ帰ってきました。初めて逢った時、「今日は英語で話

由美ちゃんと追手門

岡本 昭子 (56 英)

学院理事、評議員の改選は理事長が行田一典氏から磯田一郎氏に交代したのをはじめ、理事二十六名、監事二名、評議員五十五名が選任されました。本会では、理事就任者求められていたが、第一期生の年齢が、ようやく四十歳を超えたところであり、本格的な学院運営活動にはまだ早い——との判断から、理事のポジションは辞退し、いま暫く、評議員の職務を勤めながら勉強していくこととしました。

めめることで、理事会の了承を得ました。また、山校友会とのことに触れたの際に、「預り金問題について、先方から何か申し出があるのか」との質問が出、処理問題について緊急動議が上程されました。事務局から経過説明が行われたのち、「山校友会からは梨の礎。当方から『どうぞ』と

いうものではなし、いま暫く、七百二十万円の預り金は凍結したい」(関会長)という意思を一同は賛同。東國徳学校法人理事からは、百周年記念事業に際し、相互に協同歩調で行う施策を見出し、そこに投入すればどうか——との打解案の検討も受けており、今後の課題として前向きに協議していく方針を打ち出しました。この推進に当っては、本会、山校友会との間で協定書を作り、卒業生の大事な終身会費の使用の意味から、公正証書として取り交わした方がよい——との大勢意見。協定文書原案の作成は常任理事会に委任されました。この原案提示を受けて折衝に着手することなどを取り決めました。

(彼女の記憶にある)開校当時の追手門学院大学は、荒涼とした丘の上に、ポツンポツンと白い建物立ち並ぶだけで、学生街の活気はほとんどなかった——とのこと。そんな時期、一、二期生の先輩方は小さな由美ちゃんをととても可愛がっていたそうです。

☆☆☆☆

昭和61年度 校友会資金収支計算書

自 昭和61年4月1日 至 昭和62年3月31日 (単位:円)

Table with 3 columns: 科目, 予算額, 決算額. Includes sections for (収入の部) and (支出の部) with various sub-items like 会費収入, 雑費支出, etc.

昭和61年度 校友会消費収支計算書

自 昭和61年4月1日 至 昭和62年3月31日 (単位:円)

Table with 3 columns: 科目, 予算額, 決算額. Includes sections for (収入の部) and (支出の部) with sub-items like 会費, 雑費, 特別経費, etc.

名簿発行後、会員のお宅に「同窓会ですが」と電話をかけ、勤務先や勤め先の電話番号などを聞き出すというところが、よくあるようです。事務局から、会員の皆様にお電話するときは、「同窓会」の名称は用いませぬ。また、必ず、担当の氏名を申し上げますし、よほどのことがない限り、電話はいたしません。ご不審の折は事務局まで再度、お問い合わせ下さい。

ご注意を

監査報告書

私ども監査役は追手門学院大学校友会の昭和61年4月1日から昭和62年3月31日までの貸借対照表、消費収支計算書、資金収支計算書について監査した。この監査にあたり私ども監査役は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続を履行した。監査の結果、貸借対照表、消費収支計算書、資金収支計算書は、校友会会則に従い、校友会の財産及び収支の状況を正しく示しているものと認める。

追手門学院大学校友会 監事 森 嘉一 監事 宮本 幸治

校友会貸借対照表

昭和62年3月31日 (単位:円)

Table with 4 columns: 借方, 貸方, 借方, 貸方. Shows assets (流動資産, 固定資産) and liabilities (流動負債, 特定引当金, 消費収支差額の部).

※預り金 56年度徴収、57年度山桜会費

61年度決算について 各種事業を積極的に推進

六十一年度は、本学二十周年記念事業に際し、本会では、「初代学長・天野利武先生の記念碑」の作成、校友会会簿の発行、記念パーティーの挙行など、特別経費として一千万円を枠組みして対応しました。みなさん方には、募金、会員名簿の広告など、ご協力をいただき有難うございました。

この厚意を求めてみよう——ということ。この対比からも、初代学長の胸像作成に要した費用にご協力下さるようお願いいたします。20周年事業の関係から、会報印刷費、通信費が予算を超過しました。人件費については、事務量の増大から、アルバイト職員の問題を報やしたためです。人件費については、六十二年度も同量の時間投入が見込まれ、その算定実績となっております。将軍山会基金という項目は、本会が公益法人として体制を変え、みなさんの会費は取り崩すことなく、年間の運営をこの基金果実によって処理して運営していくためのものです。これは、みなさんが終身会費として会費を納入していただいているにもかかわらず、途中で会費を使いきり果たしてしまつて運営ができません、みなさんに迷惑をかけては——という心配を排除するために積み上げています。この基金が相当額蓄積されることで、金利変動が生じても揺るごとなく運営できると確信します。山桜会費の預り金は、関会長の方針通り六十二年度も凍結、近く、山桜会との会合が持たれることと思いますが、本会が学校法人追手門学院から正式な組織として評議員の選出も受けたこともあり、奥田順一学院長のご意見、ご指導も受けながら早期に結論を見出したいと考えています。昨年度は各種事業イベントがありました。六十二年度も気を引き締めて頑張りたいと考えます。

昭和62年度 校友会消費収支予算書

自 昭和62年 4月1日
至 昭和63年 3月31日 (単位: 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	差 異
(収入の部)			
会 費	20,000,000	17,000,000	3,000,000
受 取 利 息	0	0	0
雑 収 入	0	0	0
収入の部 合計	20,000,000	17,000,000	3,000,000
(支出の部)			
一 般 経 費			
人 件 費	990,000	650,000	340,000
会 報 印 刷 費	610,000	610,000	0
の 他 の 印 刷 費	600,000	600,000	0
通 信 費	1,800,000	1,750,000	50,000
交 通 費	150,000	0	150,000
消 耗 品 費	0	0	0
備 品 費	0	0	0
会 議 費	100,000	0	100,000
慶 弔 費	50,000	50,000	0
新 入 会 員 登 録 ・ 住 所 変 更 等 名 簿 完 備 費	2,500,000	2,450,000	50,000
総 会 費	100,000	0	100,000
雑 費	0	0	0
卒 業 記 念 品 代 費	100,000	100,000	0
学 友 会 活 動 援 助 費	500,000	0	500,000
大 学 祭 援 助 費	100,000	100,000	0
大 学 祭 行 事 参 加 費	100,000	100,000	0
支 部 設 立 準 備 費	200,000	0	200,000
特 別 経 費			
20 周 年 記 念 事 業 準 備 基 金	0	10,000,000	△10,000,000
将 軍 山 会 基 金 繰 入	5,000,000	0	5,000,000
将 軍 山 会 基 金 II 繰 入	5,000,000	0	5,000,000
[予 備 費]	2,100,000	590,000	1,510,000
支出の部 合計	20,000,000	17,000,000	3,000,000

前年度予算より増額しているのは
 ①学友会活動援助費②支部設立準備
 金③会議費④人件費⑤通信費など。
 昨年度ゼロ計上だった学友会活動援
 助金は、ことしから五十万円を組み
 ました。これは校友会終身会費の納
 入方法について、校友会との協議が

重ねられた末、後期学費納付の請求
 の際、同時徴収に合意が得られたか
 ら。これで一〇〇%の終身会費の納
 入となり、卒業式で校友会が例年寄
 贈している証書入れの筒を、終身会
 費を納入しないで受け取って帰るな
 ど、受益者負担の原則を外れた者が

新年度予算について

—東京・北陸支部設置へ—

皆無になる——是正が図られること
 になりました。

従前、終身会費は本会からの単独
 請求であったため、納入を呼びかけ
 る通信費等で五十万円以上の経費を
 要していました。この是正が図られ
 たことで、校友会に対してこの費用
 を援助して、活動に役立ててもらい
 たいとするものです。

案内文書の印刷、郵送費等に使用し
 ます。
 会議費は従来、日曜日、母校で開
 催することが多かった理事会等を、
 仕事を終えた時間帯で集合し易い大
 阪市内でも設定する回数を増やした
 ところからです。人件費について
 は、会員数の増加に伴った処理業務
 を行うために、アルバイト職員の時
 間帯延長などが理由。
 その他は例年からの事業施策の継
 続で、みなさんから寄せられた大切
 な終身会費を維持しながら運営して
 いく方針です。この運営を全うする
 ことによって、他大学の卒業生の会
 にみられるように、基金果実を公益
 法人として運営できるものを目指し
 たいと思っています。

力頂ける方を求めたいと思います。
 みなさんとも、社会の第一線に立
 ち、忙しい体、まして奉仕というこ
 とで、大きなご無理をおかけするこ
 とは思うのですが、母校と校友会会
 を結ぶ紙面充実に参画していただ
 けようお願いします。
 このスタッフの方々には、現在の
 会報のスタイルの見直しから、取り
 上げる内容の検討、発行に至るまで
 のお手伝いをお願いしたいと考えて
 います。会員も増え、年代も四十歳
 代から二十歳前半という広範囲な層
 を把える本会。より多くの英知を集
 め、読み易く、個々の会員誰もが
 母校の話題の一つでも本会報から吸
 収できるような紙面への脱皮を目指
 したいのです。

スタッフを募集

校友会会報が
 おもしろくない
 という意見
 を耳にします。
 発行当初から同
 じスタイルを継
 承してきたので
 すが、例年同じ
 サイクルで、決
 算、予算のご報
 告や会員の住所
 変更などをお知
 らせするだけでは、もの淋しいで
 す。社会に巣立ち、母校とのパイプ
 が本会報だけ——という方々にはも
 つと楽しく、多くの話題を提供しよ
 うということから、会報編集にご協

六十二年度の本会予算でも、会報
 発行費用について、増額をお願いし
 て承認を得ました。これは母校の情
 報、会員間の情報を密にし、追手門
 学院大学の卒業生同志のコミュニケ
 ーション向上に進むための理由から
 です。
 そのために、編集スタッフの一員
 としてみなさんに名を連ねていただ
 き、「あんな話があるけど載せてみ
 ては？」とか、「母校でこんな噂を
 聞いたのだけど真実は？」などの記
 事のアイディアを出して下さい。本会
 の理事、評議員とは違う視点で、母
 校を見ていただけたらと思います。
 申込み、お問合せは本会事務局ま
 でお願いします。連絡住所等は本号
 ご送付の封筒にあります。